

棚田に吹く風

2016
夏
Summer
季刊

2 特集 全国の棚田ローカル選

5 フォトエッセイ
えひめ棚田紀行

6 棚田・里山からのたより
歴史ある棚田を守り続けたい
三重県亀山市坂本棚田

8 ヨネちゃんの ニッポン全国
棚田オーナー制度紹介
地域おこし協力隊 棚田班 奮闘記

9 棚田博士は今日も行く
茅ヶ岳山麓「御領の千枚田」
山梨県甲斐市亀沢・吉沢

12 会員のひろば

14 棚田ネットワークの
かつどうノート
スタッフのつぶやき

15 Project Report

特集

全国の棚田 ローカル選

平成11年7月26日に農林水産省によって「日本の棚田百選」が発表され、117市町村（認定当時）の134地区の棚田が選ばれたのをきっかけに、地方でも独自の棚田選が誕生しました。現在、「日本の棚田百選」と同時期の平成11年に選定された静岡県の「静岡県棚田等十選」を先駆けに、6県が個性豊かな棚田選を発表しています。

これからもっと数が増えることを祈って、6つの棚田ローカル選を紹介します。



和歌山

「わかやまの美しい棚田・段々畑」

■ 認定年…平成26年

■ 認定地区…26地区（棚田22、段々畑4）

※H28年現在



左上：有田川町あらぎ島の棚田
上：那智勝浦町小阪の棚田

参考HP

わかやまの美しい棚田・段々畑

検索

平成25年11月、和歌山県有田川町で「第19回全国棚田（千枚田）サミット」が開かれました。これをきっかけに、継続的な棚田保全と棚田を資源とした地域の活性化につなげる活動を進めるため、翌年から「わかやまの棚田・段々畑サミット」が開催されるようになり、同年に「わかやまの美しい棚田・段々畑」の認定もスタートしました。選ばれたのは、日本の棚田百選に選ばれている「あまじま蘭島」を含め、4市7町にわたる22地区で、ほかにみかん畑2、茶畑2が選定されています。

今年も9月に、認定地域の一つである橋本市で第3回の棚田・段々畑サミットが行われることになっています。

和歌山県は「棚田」という言葉が古文書（高野山文書）に初めて登場した地域で、熊野古道沿いの棚田や中世から存在する集落など、歴史を感じさせられる魅力的な要素がたくさんあります。

山形

「やまがたの棚田20選」

■ 認定年…平成20年
■ 認定地区…23地区

先人達が稲作の場として築いた美しい棚田が山形県には数多く残されています。里山に囲まれた棚田景観と棚田の持つ価値は近年見直され、自治体や保存会、市民などの手で保存活動が進められています。

海にせり出した鶴岡市・暮坪の棚田、百選の棚田にも選定されている榎平の棚田、四ヶ村の棚田、そして大蔵の棚田などが特に有名です。山形県はこれらの貴重な棚田を次の世代に継承していくために平成20年に「やまがたの棚田20選」として同県内23ヶ所（百選の棚田3ヶ所を含む）の棚田を認定し保全に努めています。

山形の棚田の特徴である土積の畦や杭掛けの風景は秋の風物詩として訪れる人を楽しませてくれます。



やまがたの棚田20選

上：「やまがたの棚田20選」ロゴ

- 1：鶴岡市暮坪棚田
2：朝日町榎平の棚田
3：山辺町大蔵の棚田

参考HP

やまがたの棚田20選

検索

静岡

「静岡県棚田等十選」

■ 認定年…平成11年
■ 認定地区…10地区（棚田6、わさび田1、茶畑2、段々畑1）



左から：菊川市「上倉沢の棚田」、松崎町「石部の棚田」、浜松市大栗安の棚田

静岡県は平成10年に「ふるさとの棚田保全基金」を設立。平成11年に「多くの人に棚田等の有する機能の理解促進を図ると共に、棚田等を核とした都市との交流を図り中山間地域の活性化を推進すること」を目的として、県下38市町村（当時）から推薦された107地区の棚田等の中から、国土保全、農山村景観、歴史的文化的価値等に優れる棚田等を10地区選定。様々な中山間地域農業が盛んな静岡だけあって、棚田以外にも茶畑、わさび田、段々畑が選ばれています。静岡県は「日本の棚田百選」には5地域選定されていますが、うち「大栗安の棚田」と「久留女木の棚田」は「棚田等十選」にも選ばれています。「棚田百選」と同時期に認定された棚田ローカル選の先駆けであり、棚田百選には選ばれていない「石部の棚田」「上倉沢の棚田」などを筆頭に、県内での棚田保全活動を活性化させた功績の大きい歴史ある十選といえます。

参考HP

静岡県棚田等十選

検索

栃木

「残したい栃木の棚田21」

■ 認定年 .. 平成14年
■ 認定地区 .. 28地区

参考HP

残したい栃木の棚田21 検索

栃木県は県内の貴重な棚田風景を21世紀に伝えようと「残したい栃木の棚田21」を選定し、保存活動に取り組んでいます。

平成14年、次世代に残したい棚田として県内の数ある棚田の中から28ヶ所を選定しました。県発行の冊子には認定に当たって次のようなことが書かれています。

● 大切な役割を持つ棚田は、地域の人たちの多くの努力によって守られてきました。

● ふるさとの原風景として、都市住民からも親しまれている棚田をこれからも守っていくためには、広く県民の皆様に棚田を理解していただくことが重要です。



上：茂木町石畑の棚田／下：矢板市平野兵庫畑の棚田

岐阜

「ぎふの棚田21選」

■ 認定年 .. 平成20年
■ 認定地区 .. 19地区

参考HP

ぎふの棚田21選 検索

「ぎふの棚田21選」は、県内に約4300畝の棚田（県内の水田の約1割）を有する岐阜県が、平成20年12月18日に開催した「ぎふの棚田21選」選定委員会で認定された19地区の棚田選です。平成20年の5月から5カ月間の募集期間内で38地区の応募・推薦があり、その中から選定されました。また番外編として、選定要件は満たさないが優れた棚田である3地区をHP上で紹介しています。

岐阜県は「棚田百選」に5地域認定されていますが、内「田頃家の棚田」が番外編に、他の4地域は「ぎふの棚田21選」の19地区に入っています。



上：八百津町上代田の棚田／下：揖斐川町貝原の棚田

山口

「やまぐちの棚田20選」

■ 認定年 .. 平成21年
■ 認定地区 .. 21地区

参考HP

やまぐちの棚田20選 検索

※日本の棚田百選に認定された1地区を含む

「やまぐちの棚田20選」は、棚田のある市や町から推薦を受けた候補地区（64地区）の中から、平成21年秋に県民のインターネット投票および物産展で投票を行い、その後やまぐち棚田保全協議会で景観・規模・活動状況・アクセス条件などの視点を基に1次選考が行われ、そこで絞り込んだ地区の中から現地調査を経て選ばれました。最終選考では、「景観の美しさ」とともに、活動組織がしっかりしていることなどが重視されたそうです。

それぞれの地域では、牛の放牧による休耕田の管理、地域のお祭り、都市住民との体験交流イベント、棚田のオーナー制度、直接支払制度を利用した積極的な営農活動などが行われています。



上：長門市東後畑の棚田／下：山口市三谷の棚田



えひめ 棚田紀行

写真・文 河野 豊

愛媛県東温市
井内の棚田

松山市の東隣り、松山中心部より25キロ、道後平野の源流に位置する東温市井内地区です。標高300～650メートルの集落一帯に棚田が広がっています。

昔から榊の栽培が盛んで、棚田周辺には榊が植えられ「棚田と榊の共存」が生かされている数少ない集落です。榊は年中収穫でき、枝打ちをすればするほど良い榊が取れ、棚田が日陰にならないためにも一挙両得です。

26年前、自然豊かな里を四季折々の花々で描きたいと、古民家農家レストラン『ぼたん茶屋』が誕生しました。冬・春ぼたん、桜、アジサイ等々……棚田が広がる中での景色は圧巻です。また「どぶろく」の製造販売、囲炉裏を囲んでの食事など、地域内外の人たちが憩う場所となっています。

今年から「地域おこし協力隊」も受け入れ活性化に向けて新たな取り組みが始まり、ブランド化された「井内米」の販路拡大にも力が注がれています。

榊(しきみ) …香気があり、墓・仏前に供える植物。年中収穫でき、春・秋彼岸、盆月、正月には需要が多い。



河野 豊 こうの ゆたか

1947年 愛媛県西予市野村町生まれ。
2010年～2015年「棚田風景」「棚田に生きる」「棚田守り人」をテーマにした写真展11回開催(愛媛県下にて)。愛媛県下の棚田を中心に取材しながら保存活動及び活性化事業に関わっている。
2010年『南伊予の地域遺産 棚田 一写しだされた原風景』写真集出版



集落一帯に広がる棚田(秋風景)

棚田・里山
からの
たより



歴史ある棚田を守り続けたい

坂本棚田の成り立ち

亀山市は三重県の中央のやや北部に位置し、鈴鹿山系の麓にある自然環境に恵まれたところです。なかでも坂本棚田のある安坂山町は、鈴鹿国定公園に接し東海自然歩道がある風光明媚なところです。

坂本棚田は、23畝約440枚の棚田で構成され、歴史は古く戦国時代までさかのぼります。明治8年8月に作成された改正反別地押番号帳によると、坂本地区の田1枚あたりの面積はわずか11・7平方メートル程度で、まさに千枚田であったと想像されます。その後明治中期から大正末期にかけて地区一丸となり、ほぼ現在の棚田に集積をし、その後数回の改良工事を経て、現在の棚田となりました。

また4、5百年前から現在に至るまで棚田や宅地に石積みが使用されていますが、大きな石は下に、小さな石は上に積み上げていき、角には

三重県亀山市坂本棚田

大きな石を使用し、土台を安定させ、5〜6個の石で1個の石を囲むようにして積み上げられた、モルタル等は一切使用していない（空積み）石積みが未だに残っています。

棚田を守るための様々な工夫

亀山市においても、他市と同様に獣害が増えてきており、サル、シカ、イノシシの被害に悩まされています。しかし、平成23年度に棚田全体を防止柵で覆うことにより獣害を減らすとともに、棚田の中には防止柵を設置する必要がなくなり景観にも役立っています。棚田の管理については、草刈り、農道・水路の整備、柵の点検を共同で行ったり、トラクター等も共同購入し、棚田をみんなで管理出来るように努めています。

毎年11月ごろには「棚田あかりin 坂本」として棚田に灯りをともしイベントを行っています。集落の人が数時間かけ棚田の畦に沿っ

上：坂本棚田全景／下左：あかりイベントの準備／下中：集落は棚田の中にある／下右：イベントでは棚田米の販売も



稲が実る頃の坂本棚田

■ 棚田へのアクセス

【公共交通】 JR亀山駅から野登・白川地区
自主運行バス 野登ルート・野
登白川ルート「坂本棚田停留
所」下車すぐ。または、JR亀
山駅からタクシー利用約30分

【自動車】 東名阪自動車道「亀山インター」
を降り国道1号線を西へ、小野
町西交差点を右折、フラワーロ
ードを北上、安楽川を越えた交差
点を左折し県道302号線を西へ
約3km、坂本棚田の看板のある
交差点を右折約1.5km「坂
本棚田駐車場」

■ お問い合わせ

亀山市環境産業部 農政室
Tel 0595-84-5082
Mail : nousei@city.kameyama.mie.jp



て一つずつ灯りをならべていき、薄暗くなるころに点灯します。棚田に数百個の灯りがともる景色は、都会のイルミネーションとは違つ、時間がゆっくりと流れるような空間になります。また、会場では農作物や棚田米、地元の人々が作った漬物などの販売を行っています。

春先には、集落の周辺に群生している「みつまた」の花が見頃を迎えます。「みつまた」は和紙の原料になる植物で、枝が3つに分かれるところから「みつまた」の名前が付いています。湿地帯を好むため、川沿いにしか自生せず、黄色い丸い花が咲く景色は「みつまた」特有のものです。

周辺には観光スポットも

棚田附近の景勝地として野登山や石水溪があります。

市の北部に位置する野登山は、山頂付近にブナの原生林や樹齢数百年の大杉が林立し、深山の自然の魅力を肌で感じられます。標高852mの野登山山頂付近には、ブナを中心とした落葉広葉樹の原生林が約4畝にわたって広がり、日本の植生を伝える貴重な資料として三重県天然記念物に指定されています。

石水溪は、鈴鹿川の支流である安楽川の発する一帯の溪谷です。鈴鹿山麓に囲まれた雄大な溪谷に、

清流が流れ、四季折々の魅力あふれる自然の造形美を満喫できます。キャンプシーズンの夏休みになると県内はもちろん名古屋や大阪方面からもたくさんのレジャー客が訪れます。

現在この地区では約30世帯が生活しており、棚田の保全に取り組んでいます。他の地区と同じく人口の減少、高齢化が問題となっており、棚田の保全は容易ではなくなっています。

(亀山市農政室)



「棚田あかり in 坂本」。遠くに新名神道のライトが見える



第八回は、群馬県
みなかみ町月夜
野の『真沢ファームの棚田』を紹介
するわ。

隣接する真沢の森には美人の湯「真
沢温泉」もあるのよ！
宿泊のお客様にはその日に採れた
ばかりの山野草を中心とした「摘み
草料理」が振る舞われるんですって。



そんな真沢ファームの棚田での農作業は田植え、草取り、稲刈り
&脱穀、と年に3～4回。年会費は10,000円～24,000円。田ん
ぼの広さによって変わるわ！収穫時には、玄米が15kg頂けて、さ
らに隣接の一軒宿への宿泊割引券や日帰り入浴割引券も貰え
ちゃうの！申込は下記URLより、通年で受付中よ！

www.minakami-port.com/sanazawa/farm/



ヨネちゃんの



ニッポン全国
棚田オーナー制度紹介

第八回

※棚田オーナー募集地域紹介サイト⇒ [棚田百貨堂](#) 検索

地域おこし協力隊 棚田班奮闘記

Vol.1



氷見市地域おこし協力隊
長坂の棚田担当
岩村 茂幸 (29歳)

今年の4月から地域おこし協力隊として富山県氷見市にきました。市内にある長坂の棚田で、日々農業に従事しています。出身は千葉県で大学は北海道、卒業後は宮城県石巻市で震災後の復興支援活動として漁業に携わっていました。

ここ長坂は、棚田から望む富山湾と立山連峰の眺めがすばらしく、18年前に「日本の棚田100選」に認定されました。同年からスタートした棚田オーナー制度はいまでも行われており、他県から多くの方が田植えと稲刈りを楽しみに毎年いらしています。また、中山間地でありながら海にも近く、新鮮な魚介類も味わえるのが特徴です。

私のミッションは棚田米のブランド化。と言うとざっくりしていますが、農家の収入を少しでも上げること、自分たちが作った米が評価されることで農家が自信を持つこと。この2点にフォーカスして取り組んでいます。

農業素人の私にとって米作りはわからないことだらけですが、幸いにも地元の方々はこの地に住んで以来はじめての「移住者」の私を、あたたかく受け入れてくださっています。活動はまだはじまったばかりですが、これから地元農家さんたちと協力し、活気ある棚田にしていきたいと思っています。



❖ Facebook「長坂の棚田」で検索お願いします！

棚田博士 は 今日も行く!

中島峰広の
全国棚田行脚

茅ヶ岳山麓「御領の千枚田」

山梨県甲斐市亀沢・吉沢



なかしま みなひろ
中島 峰広 (棚田博士)

早稲田大学名誉教授。学術博士。NPO
法人棚田ネットワーク代表。全国棚田
(千枚田)連絡協議会理事、棚田サミッ
ク開催地選定委員会委員長。1933年
宮崎県生まれ。早稲田大学教育学部地
歴科卒。2004年まで早稲田大学教育
学部教授。著書に『日本の棚田—保全へ
の取り組み』『百選の棚田を歩く』『続・百
選の棚田を歩く』『棚田 その守り人』(以
上、古今書院)。現在、百選外の棚田に
ついての執筆準備のため全国行脚中。

甲斐市は山梨県中央部、竜王町・
双葉町・敷島町が合併してできた
新市。亀沢・吉沢はかつての敷島
町に属し、甲斐市の北部、茅ヶ岳
を望み昇仙峡下流荒川沿いの河岸
段丘地に位置している。棚田ネッ
トの会員、棚田と雪形を題材にし
て絵を画く酒井英次さんが同僚と
甲府方面に旅行した折に御領の千
枚田の情報をえて教えてくれた。

2015年4月に初めて訪ねた。

御領千枚田へは、公共の交通機関
ならば甲府駅バスターミナル③番
乗り場から発車する1日11便の運
行がある昇仙峡行を利用すること
ができる。バスは駅南口のターミ
ナルから朝日町のガードをくぐり、
朝日町三丁目の交差点・横沢通り
を経て市街地を東西に走る県道6
号を西進する。千塚の交差点を右

折、荒川に沿う県道7号を北上す
れば昇仙峡の入口に当たる吉沢集
落に至る。桜橋の停留所で下車、
荒川を渡り左折して集落内の緩い
坂道を上って行けば御領の千枚田
だ。自家用車ならば竜王駅からが
判りやすく、駅の東側を走る県道
25号を北上、荒川の支流亀沢川右
岸の集落大下を過ぎて右折、亀沢
川に架かる新中下橋を渡れば御領
の千枚田である。

関東随一の棚田景観

棚田は、地籍図によれば亀沢の日
影林、中央部の御領、吉沢の横田に
またがる。亀沢と中央部は御領堰、
吉沢は吉沢堰の受益地であるが、地
元では3者をまとめて御領の千枚田
と呼んでいる。まず亀沢では、亀沢
川左岸段丘地の傾斜13分の1の緩斜

面に分布、ほぼ中央を南北に走る農
道の両側にそれぞれ30段以上数えら
れる。農道東側の上・中段では1枚
が10〜15^坪、石積みも1〜2^段の高
さがあるが、下段では1枚が1^坪内
外、石積みも50^{センチ}程度。農道西側は、
上・中・下段を通して1枚が0・5
〜3^坪と狭く、石積みは上段では1
〜2^段あるが、下段では50^{センチ}にも満
たない。

中央部では、亀沢と吉沢を結ぶ市
道の最高点を中心にし、市道の上
と下の傾斜8分の1の斜面に展開
している。市道の上には1枚が1
^坪内外、土坡の高さ50^{センチ}ほどの棚
田が15枚あり、放棄されていたも



1：棚田遠景／2：石積みの高さは1～2メートル

のをNPO法人の組織が復田、管理している。市道の下は農道を挟み、両側にそれぞれ20段以上、1枚が1～2畝、石積みは部分的には3畝を超えるものもあるが大部分は1～2畝。畑として利用されている転作田がかなりみられる。

吉沢では、市道の上下、傾斜7分の1の斜面に、市道上では3列になり、1枚が2～10畝、石積みあるいは土坡の高さ1畝内外の棚田が10段ほど並んでいる。市道下には同じような広さ、石積みあるいは土坡の高さも1畝内外の棚田が15段以上みられる。これらの棚

田は現在60割ほどが耕作されているが、かつて全面的に耕作が行われていた時代、規模の大きさと景観の美しさから関東随一と称えられ、昇仙峡に向かう観光バスも一望できる場所に停まり、ガイドがその美観を案内していたほどだったそうだ。

1999年に保全活動がスタート

近年耕作放棄が進み、その景観が損なわれるようになり、これを憂えた地元の山梨県職員、敷島町職員、新聞記者、会社員、舞踏家な

どが棚田百選の選定が行われる前の1999年5月に敷島町棚田景観保存研究会を結成、放棄地の一部を復田耕作する棚田の保存活動を始めた。その後組織は2003年にNPO法人敷島棚田等農耕文化保存協会に発展改組され、活動を続けている。最新の総会資料によれば、メンバーは県職員やOB、甲斐市職員、地元農家、会社員のほか近くに造成されたクラインガルテンに入居した新住民が加わり、活動を活性化させている。活動の内容は、御領最高所の放棄された棚田15枚を復田、耕起・代掻き・田植え・草刈り・稲刈り・脱穀など一連の作業に会員37名が参加。運営費は会員の会費、市の助成金、米の売却代などで賄われている。

中心メンバーは県職OB

会の中心メンバーは、会長の堀内克一さん、初代事務局長の山本賢治さん、現事務局長の小田切一正さんである。

堀内さんは74歳、奥さんと暮らす二人だけの世帯、学校を終え山梨県庁に60歳の定年まで勤めた。退

職後も甲斐市選挙管理委員会委員長などの要職を兼務。リーダーシップを持つ地域の名士である。生家は専業農家、父親は水田と畑1畝を耕作、乳牛3頭を飼育する酪農家だった。自身も県庁に勤めながら土・日曜日父親の農作業を手伝ったという。現在は家庭菜園を管理機で耕作する程度、農地は市民農園として開放している。県庁在職中から地域の農耕文化に関心を持ち、その象徴的存在であった御領の千枚田が荒廃して行く姿に耐えられず、仲間を募り景観保存研究会を立ち上げたそうだ。

山本さんは70歳、子供は独立し夫婦だけの世帯。千葉大学園芸学科卒業後、山梨県庁に入庁、農業改良普及所、農業試験場に技術職として勤務した後、行政職に転じ最後は農政部技監を務め定年を迎えた。退職後は山梨県農業大学校の講師を務め、農業を目指す若者に野菜栽培理論と農業法規を教えている。生家は水田40畝、畑60畝を所有する兼業農家。父親は県の農業試験場に勤めていたというから親子二代にわたる試験場勤務と



初めて企業の田植え体験を受け入れ

いうことになる。現在は農業大学の校務のかたわら近所に7[㍗]の畑を借り野菜栽培を行っている。実家の田畑は新規就農者などに貸しているそうだ。

小田切さんは61歳、子供は東京で独立し夫婦だけの世帯。奥さんは県立図書館司書の現役であるため、「自分は女房の扶養家族ですよ」と云って笑われる。早稲田大学を卒業後、山梨県庁に入庁、最後は宝石美術専門学校の事務局長を務め、昨年の3月、定年退職した。生家は兼業農家、水田20[㍗]、畑80[㍗]を所有、畑は桑畑で1975年頃まで盛んであった養蚕で生計が立てられていた。その桑畑の大部分はエノキの森に、国蝶オムラサキの楽園になっているとい

う。父親が17年前に亡くなってからは勤めのかたわら水田と、昨年亡くなるまで母親が青空市に出荷する野菜などを栽培した畑の管理を行ってきた。退職後は、農作業が好きだったので、迷わず農業に専念することになった。20[㍗]、4枚の水田と畑10[㍗]をトラクター13馬力、歩行型2条田植機、バインダー、ハーベスターなどを駆使して耕作。イネは刈り取った後、ウシに掛けて干す(ハサ掛けのこと)天日乾燥による収穫、3分の2を近所の人や特別の顧客に販売、3分の1を飯米と縁故米にしている。各種の機械類を所有する小田切さんは保存協会の最も頼りになる働き手である。

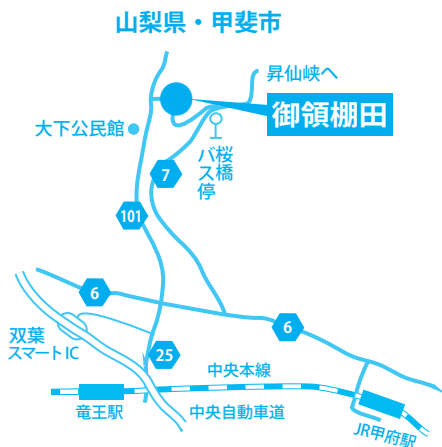
外部との接触が刺激に

敷島棚田等農耕文化保存協会では、放棄田の復田・保存活動のほかに、昨年からローソク祭りを始め、今年も6月上旬に実施した。地元新聞が写真入りで紹介してくれたこともあり、地域住民が関心を持つようになったという。また、あらたにNPO法人棚田ネットワークの仲介により、新生フィナンシャ

ルの社員が放棄田の草刈りを行うCSR活動や、無印良品で知られる良品計画が募集する顧客の農業体験受け入れなども始まり、会員の意欲を刺激、棚田の保存活動は一層の盛り上がりを見せるようになっていく。

堀内さんは今後について、地元農家の協力を得ながら、甲斐市の顔となる棚田景観づくり、御領千枚田米のブランド化、都市住民との交流、例えば棚田オーナー制の実現などに力を入れていきたいと抱負を述べられた。

棚田へのアクセス



【公共交通】 甲府駅南口から昇仙峡行きのバスに乗車し10km20分のバス停「桜橋」で下車。荒川を渡り左折して集落内の緩い坂道を上って行く。バス停から徒歩20分。

【自動車】 中央自動車道の双葉スマートICから県道25号101号を北上し、大下公民館を過ぎて右折する。双葉スマートICから6km、約15分



左から、小田切さん、堀内さん、山本さん



「こんな活動をしています」「こんなことをやります」という皆さんの声を編集部までお寄せください! ご要望、感想やご質問でもOK!
(会員の声8000字まで、会員レポート4000字まで。写真も添えて) 一六〇〇〇三 東京都新宿区西新宿七ーハー一六 トーシンハイム七〇四号「棚田に吹く風 会員のひろば」宛 メールでも受付けています ↓ hiroba@canada.or.jp

私なりの棚田の楽しみ方、愛し方

三谷 真実
(東京都江東区)

私の場合、最初は棚田写真集を見て気になる棚田を見つけては旅をしていました。土谷棚田や浜ノ浦の棚田、丸山千枚田、おぼすて棚田、星峠などに行き、散歩したり写真を撮ったりしました。それぞれの棚田に個性があり、季節によって全く違う顔を見せてくれる棚田の景色はどれもとても美しいものでした。次第に見ているだけでなく実際に稲作体験がしたいと思うようになり、棚田ネットワークで田植えや稲刈り体験に参加しました。現在は埼玉県横瀬町にある寺坂棚田で行われている棚田学校に参加して3年目です。田植え前の用水路の手入れから田植え、草取り、稲刈り、脱穀まで様々な作業を地元農家の方が教えてくださいます。武甲山を望む棚田で清々しい汗をかきながらの作業はとてもやり甲斐があります。そして極め付けは棚田での婚礼写真の撮影です。今年4月に入籍したのですが、大好きな棚田で婚礼和装写真がどうしても撮りたくて、寺坂棚田で撮影しました。一生の思い出になりました。

素晴らしい棚田の景色は末永く残ってほしいと思っています。私が現在活動している寺坂棚田も、耕作放棄地が増えてしまっていた時期がありました。棚田所有者の中で棚田復元への気運が高まり、農家や行政関係者などで話し合いの結果、棚田



学校という形をとって都市住民とともに行う形で平成13年から開校されました。卒業生を対象としたオーナー制度も行われ、すでに8割方の田が再生されました。今年度は20~30名の生徒が都市近郊から集まって活動しており、有機無農薬で古代米を作っています。

以前棚田の旅途中で地元の方とお話をする機会があった時に、後継者不足で10年後にはこの棚田はなくなってしまっているだろうという話を聞きました。棚田を維持していくのは並大抵の労力ではないと思いますし、様々な事情があるのだと思います。地元住民でもない私の勝手な想いかもしれませんが、寺坂棚田の復元は一つの好事例として、棚田ネットワークの活動と共に棚田保全の動きがより広がることを願っています。微力ですが、私も棚田保全の活動に今後とも関わらせていただきたいと思っています。

会員レポート

「なごみの家」の竣工式

NPO法人 恵那市坂折棚田保存会 久保田 旭

坂折棚田では体験交流施設「棚田なごみの家」がこのほど3月に落成となりました。NPO法人の事務局としての機能の他、食堂・シャワー室・21畳の大会議室(板間)・14畳の小会議室(和室)を備え、棚田オーナー制度を始めとした体験交流イベントにも活用していく方針です。食堂は地元農産物の直売所兼棚田カフェとなっており、モーニングサービスも行っています。7千人ほどの年間来訪者に、この施設を利用することでさらに棚田の良さを知ってもらえればと考えております。また簡易宿泊も計画しており、早い段階で実現できるよう努めています。屋根裏を中二階として、宿泊空間とします。

この施設を使った大きなイベントとして、6月4日(土)には「第7回 田の神様灯祭り」を開催しました。畦畔に蠟燭1000基を灯す他、提灯行列や郷土芸能の披露や地元による飲食出店などを企画し、600人が来訪しました。これからは単に集落としての棚田の枠を超えた、地域連携としての形で活動を展開していく必要があると考えます。



今年ではもう1つ地域連携の大きなイベントとして、10月29日(土)に石川県輪島市から世界中で演奏する「御陣乗太鼓保存会」を招聘し、棚田コンサートを行います。是非聴きにきてください。

棚田ネットワーク講演・討論会に参加して

千葉県柏市 小野 泰彦

棚田ネットワークの定期総会の後に興味深い講演と討論会の集ひがございました。そこには、約二十名の熱心な会員が出席されておりました。前半の講演会では、中島峰広先生が「棚田に価値を与えた人々」と題してお話し下さいました。文書によると高野山文書の応永十三年（1406）に「餅田」「山田」と出てゐるのが初出で、学道衆の奨学金用の田であつたやうです。江戸中期には「地方凡例録」に「山田」「谷田」「膳田」の名で出て来て下田にも入らない「無位の田」とされておりました。全く価値のない田と認識されておりました。そんな棚田に初めて価値を与へたのは、昭和初期の米国地理学者トレヴァーサでありました。二番目は、昭和後期に作家の司馬遼太郎が「街道をゆく」の一つ「橋原街道」で、万里の長城に比する遺産と評されました。以下、橋原町長の中越さん、ふるさとやばんの石塚克彦、中島峰広と続くのであります。

質疑応答では、外国の棚田の場合はどのように価値付与がされたのだらうとの問ひが寄せられ、詳細は分からないが「棚田観光」がなされてゐるので、その前に価値観の転換がなされたのだらうと答へられました。

後半の討論会では、棚田をどのやうに守つて行くかについて各人から熱心な意見の吐露がありました。佐渡がジラス（世界農業遺産）に認定されましたけれども、現場は試行錯誤の連続だとの声はリアリティあるものが感じられました。棚田の魅力が伝はつても地元の秩序を乱す人々の到来であつてはいけないし、経済効果につなげる工夫が求められてゐる事も理解出来ました。入場料等を徴収するやうな観光としてきちんと位置付ける必要性も語られました。総じて棚田をめぐる最前線を語る熱い語り合ひになったと存じます。

棚田めぐる社会状況について、とんと疎くなつてゐた私は、さながら今浦島状態でありました。しかしながら、ここで語られた事は棚田を愛する人なら知つて置いて欲しい貴重な、そして、珠玉の内容でありました。今後棚田ネットワークにおいて啓蒙と共有のために今日のやうなイベント行事が開催される事を強く望むものであります。



編集部イチオシ! BOOK & MOVIE

風の波紋



©カサマフィルム

2015年／日本／制配給：東風／監督：小林茂
／全国順次公開中、自主上映会募集中

風がおしえてくれたこと。
いのちと暮らす、いのちを食べる。
舞台は越後妻有の里山。美しい棚田が広がるこの雪深い村へ、木暮さん夫婦は都会から移住した。彼らは茅葺き屋根の古民家を修復し、見よう見まねで米を作つて暮らしてきた。悠々自適、気ままな田舎暮らしに見えるけれど、自然は厳しく、茅葺きや稲刈りも協働作業だ。だが木暮さんの周りには不思議と個性豊かな仲間が集まり、ことあるごとに困り事を囲んで宴がはじまる。ここでは新しいかたちの「結」がゆるやかに息づいている。ある春の朝、大きな地震がおきた。木暮さんの家も全壊したが、彼は再建を決意する――。



食糧と人類―飢餓を克服した大増産の文明史



ルース・ドフリース（著）
小川 敏子（翻訳）
¥800（税別）
日本経済新聞出版社
2016年1月

表紙の美しい棚田の風景でジャケ買いした本。いまエネルギー危機といえは石油のことかと思うが、その手のエネルギーを扱う遙か前から、人間はエネルギー問題と戦ってきた。食糧の確保だ。この戦いに負けていたら、いま人類はない。有史以来どのように食糧と向かい合ってきたか、その途上にあつた数々の革命とは。志ん生の落語に、「命の母」を見せる見世物小屋の話がある。銭を払つて中に入ると山盛りのご飯が置いてある。その母の壮大な歴史に興味のある方は是非。（文・竹内ヒカル）

静岡県三島の市立中学校で 棚田の出張授業

2016年5月12日 報告 高桑 智雄

静岡県三島市立南中学校の依頼で、事務局長が中学2年生の全生徒170名に棚田入門の出張授業を行って来ました。2年生の教育旅行に同県松崎町の石部棚田へ行くことが決まり、担当の先生方が下見に行ったところ、みな感動して、1日ばかりの旅行にするのはもったいないということで、急遽、棚田の基礎知識の授業を行うことになりました。第1週目に棚田入門の授業、第2週目に地域への質問状の制作、第3週目に実際に石部棚田を見に行くというプログラムになるということでした。今後、義務教育の中でこういった取り組みが増えることが期待されます。



通常総会が開かれました

2016年5月28日 報告 上久保 郁夫

通常総会が5月28日エコギャラリー新宿で開かれました。棚田ネットワーク設立20周年と会報誌「棚田に吹く風」発刊100号記念に相応しい総会となりました。事業報告では20周年記念事業としての「棚田ガイドブック」の発刊準備や認定NPO取得申請などについて報告。また今期は役員の改選期にあたり中島代表をはじめ全役員が再任されました。第2部の討論会では中島代表による「棚田の価値を見出した人々」、高木宏明氏による「世界の食料事情」などの話題提供の後に棚田に纏わる今後の20年について熱心な討論が繰り広げられました。



棚田ネットワークの
かつどうノート



このコーナーでは、棚田ネットワークのスタッフの活動や事務局のことなどを幅広くお伝えしていきます。

これはあなたの手帖です
いろいろのことがここには書きつけてある
この中のどれか一つ二つは
すぐ今日あなたの暮しに役立ち
せてどれかもう一つ二つは
すぐには役立たないように見えても
やがてころの底ふかく沈んで
いつかあなたの暮し方を変えてしまう
そんなふうな
これはあなたの暮しの手帖です

引用「暮しの手帖」より

なんとも優しく、それでいながら強くて、心にすっと溶け込んでくる言葉たち。考え抜かれ、洗練された文章というんでしょうか。言葉の「力」を感じます。改めてじっくり読んでみると、悪い癖、棚田に結びつけたくなる。そこで「手帖」という言葉を「棚田」に置き換えてみる。うん、何気にしっくりくる。棚田はもしかしたら暮らし方も変えてしまうこともあるかもしれせん。僕ももちろん、暮らし方を変えられてしまった中の一人です……。



スタッフの
つ・ぶ・や・き
＜輪番制＞



今回のつぶやき人
事務局
ひさのん

戦後間もなく創刊された『暮しの手帖』。言わずと知れた、大長寿雑誌であります。この雑誌の創刊にまつわるエピソードなどをベースに、現在、NHKの朝の連続テレビ小説で『と姉ちゃん』として放映されています。ドラマでも触れられていますが、この雑誌は、お金持ちや余裕のある人に向けてではなく、一般の人々が「いかに日常を明るく、心豊かに、そして、明日への希望を持って生きていけるか」そんなことを主題テーマにして制作されています。雑誌の冒頭には「暮しの手帖」のコンセプトとして、こんな文章が毎号必ず掲載されています。僕のとて好きな文章です。

千葉県鴨川市

川代棚田でお米づくり

棚田でのお米づくり「田植え体験」を実施



川代棚田でのお米づくり体験プログラムも2年目を迎え、5月7日(土)に田植え体験ツアーを行いました。当日の参加者は18名、現地では中島代表と川代集落の庄司代表の挨拶がありました。簡単な説明を受け早速圃場へ。ベテランから初めての方まで一本の縄を目印に横一列に並び地元スタッフの指導を受けながら植えていきました。最初はなかなかタイミングが合わず苦労しながらも、だんだん呼吸が合ってきて広い田んぼもあっという間に完了となりました。昼は広場でお弁当を食べながらの青空勉強会(高木氏による「世界の食料事情」)。その後参加者の自己紹介で交流をしました。帰りは溪流の散策をしながら新宿に無事到着しました。次回は8月28日(日)の稲刈り体験ツアーです。皆様の参加をお待ちしています。

(杉山 行男)

岐阜県恵那市

棚田ビオトープ プロジェクト

棚田ビオトープの田植え



岐阜県立国際園芸アカデミーの学生など23名が曇り空の中、5月25日(水)に棚田ビオトープの田植えをしました。上中下段と3つの棚田ビオトープがありますが、稲を植えるのは上中段のみ。まずは田植えをする前に除草をしました。ビオトープとあって3月に生まれたヤマアカガエルをはじめ、その他オタマジャクシが大量に発生、恐怖のあまりひとり女子が脱落。といったこともありましたが、なんとか田植え終了。

今年のこども棚田ビオトープ観察会は、8月21日(日)10時からを予定しています。こどもはもちろん、ボランティアのご参加をお待ちしております。

(相田 明)

静岡県松崎町

石部棚田で昔ながらの米づくり

田植え～草刈り・草取りと地曳き網祭



5月20・21日は、第3回となる『田植え』を行いました。いよいよ苗を手植えしていきます。参加者は2日間で延べ40名ほど、イベント始まって以来の満員御礼! お天気にも恵まれ、ちびっこたちも大ハッスル!で賑やかな田植えとなりました。そして7月2日・3日は第4回目『草刈り・草取り』参加者は10名ほどの少数精鋭部隊で、膝丈まで伸びていた畦草と、田んぼの中の雑草を取り除きました。特に田の草は、コナギという草がびっしり! さらに稲に似たヘイ(ヒエ)もなかなか手強い相手でした! 2日目は、恒例の石部集落の「大地曳き網祭」。みんなで網を曳き、採れたてのイカやお刺身、うしお汁を味わうことができました。次回は、8月20・21日に2度目の『草刈り・草取り』を行います。(久野 大輔)

棚田ネットワークのホームページがリニューアルしました!

画面サイズも大きくない、タブレットやスマートフォンにも対応したデザインに!



■全国棚田保全一覧

■耕作放棄される棚田



■CSR実績一覧



■棚田保全の歴史

リニューアルにあたって
新コンテンツを追加

<http://tanada.or.jp>

棚田ネットワーク

検索

ぜひアクセスして見てください!



わたしたちと「棚田の応援団」やりませんか!

棚田ネットワークは「棚田の保全に協力したい!」という会員によって自主的に運営されているNPOです。消えゆく美しい「棚田」をどのように保全していくことができるのでしょうか?一緒に考えませんか?ぜひ、私たちと棚田の応援団になりましょう!

会員になると!

年会費

会報誌「棚田に吹く風」(年4回)やイベント案内お届けの他、棚田ネットワークが主催する各プロジェクト(イベント)への参加や、スタッフとしての活動もできます。

○個人会員

維持会員	1口1万円(1口以上)
一般会員	4,000円
応援会員	3,000円
学生会員	2,000円

法人会員を募集しています!

私たちの活動にご支援・ご協力をいただける、企業、団体、事業主さまを募集しています。詳細はお問い合わせください。

年会費

○法人会員

1口3万円(1口以上)

この上のスペース(ページ上1/2サイズ)は法人会員さまのPRスペースとして広告や広報にご利用いただけます。(詳細はお問い合わせください)



編集部から
6月1日の「読売新聞(首都圏版)」の夕刊「旅」のコーナーに、石部棚田と当地での棚田ネットワークの体験プログラムの紹介が掲載されました。5月の田植え時の読売新聞の記者さんの体験取材が陽の目をしました。ほぼ片面1ページの大きな記事なので、内容も盛りだくさんでした。今年初めにも「毎日新聞」の一面コラムに「棚田ごよみ」の紹介が載るなど、最近大手新聞に取り上げてもらえる機会が増えてきました。棚田ネットワーク20年の活動が実を結んでいると嬉しい反面、希少価値として社会が認知してきたということは、それだけ棚田が危機的な状況でもあるということです。複雑な気持ちなのです。



2016年 夏号 Vol.101

発行



NPO法人
棚田ネットワーク

〒160-0023

東京都新宿区西新宿 7-18-16 トーシンハイム 704 号

Tel / Fax 03-5386-4001

e-mail : info@tanada.or.jp URL : www.tanada.or.jp

郵便振替口座 : 00100-7-151565

【今回の表紙】岩首の棚田(新潟県佐渡市) 撮影:高桑 智雄